

第3回審議会における意見への対応方針

No.	対象	発言者	意見・指摘の要旨	対応方針
1	第1章	森会長	地域特性はポジティブな内容だけでなく、課題や社会情勢の変化も一定程度示すことで、戦略目標につながる理由づけが明確になる。	地域特性では、優位性に加えて課題を併記しました。 また、市全体の人口減少に関する課題感を示すため、人口ビジョンを記載することとしました。 そのほか、戦略目標の図表において、地域課題や社会情勢の変化等を記しています。
2		森会長	地図上で明確に線引きすると受け止めに影響が出る可能性がある。離れた地域でも共通する課題や特徴があるため、地図を背景にしつつ特性を説明する方法も考えられる。	現在、デザインを調整中ですが、地区別の紹介ページでは、地図上で明確に線引きをすると受け止めに影響が生じる可能性があることから、おおまかな位置を示すことにとどめます。
3		徳地委員	市全体では人口流入が続く一方、浜益・厚田などでは人口減少に踏みとどまっている地域もあるため、地域差が分かる表現が必要。5つのエリア紹介では、戦略目標との関係や地域ごとの重点が見えるようにすべき。	市全体の人口ビジョンを記載しました。 また、北部地区の課題として、厚田や浜益を取り巻く人口減少・高齢化の課題を記載しました。 なお、戦略目標は、基本的には特定の地域を対象とするものではなく、市全域を対象とした目標を記載しています。
4		草野委員	自然環境の特色で石狩浜に関する記載がありますが、北部には暑寒別天売焼尻国定公園もあり、この部分についても、どのようにこの環境を守り、活かしていくかということを記載する必要がある。	北部地区の紹介において、「暑寒別天売焼尻国定公園」の名称を追加しています。 なお、この自然環境の保全については、戦略目標5のねらい3に、活用については、戦略目標4のねらい3に含めています。また、基本施策の(9)シティプロモーションや(11)環境にも記載をしています。
5		桑山委員	西暦と元号が混在しているため、表記を統一するか併記するなど、読み手に分かりやすい表現を検討してほしい。	原則として、和暦(西暦)という形で統一します。

No.	対象	発言者	意見・指摘の要旨	対応方針
6	第2章	八田委員	「30年後」が第5期策定時の2045年を指すのか、第6期開始時から30年後を指すのか誤解される可能性がある。第5期の考え方を継承する経緯を明記するとよい。	具体的な年次は記載しておりませんが、第1章の「計画の役割」において、 「本計画は、第5期の意志を受け継ぎつつ、こうした時代の変化に対応しながら、これからの30年を見据えて「まちづくりの指針」となるものです。」 という文章において、“これからの30年”を指すことを記しています。
7		徳地委員	「市民が主役」という表現は、行政が市民に丸投げしているように受け取られる可能性がある。	文章の表現を修正しました。 例えば、P.13の市民像における、 「市民と行政が協働でまちづくりを進めていくことで」という記載などにより、誤解されない表現にしました。
8	第3章	草野委員	地域コミュニティでは地域運営組織、関係人口ではふるさと住民登録制度などの動きを踏まえた表現があるとよい。	地域運営組織やふるさと住民登録制度など、固有名詞は設けませんが、「地域主体のまちづくり」や「関係人口」などと抽象化した単語で表現します。 ・戦略目標3のねらい3 ・基本施策(3)協働・共創・共同の②地域コミュニティ ・基本施策(9)シティプロモーションの③移住・定住に記載しています。
10		森会長	基本施策は複数の戦略目標にまたがる場合がある。該当する戦略をマークで示すなど、横断性が分かる工夫も考えられる。	現在、デザインを検討中ですが、 「戦略目標」に該当する基本施策の分野をアイコン等で表示予定です。

No.	対象	発言者	意見・指摘の要旨	対応方針
11	第3章	菊地委員	若者を地域につなげる視点が必要。新しい住宅地に入ってきた若い世代を町内会などの地域活動へつなげる記載があるとよい。	戦略目標2－ねらい1において、 「若者が活躍し、多世代が集う活気あふれるまち」というねらいを追加し、若者の地域活動への参画を戦略目標に位置付けました。 その他、基本施策においても、 ・(3)協働・共創・共同の②地域コミュニティ ・(10)歴史・文化・生涯学習の②生涯学習 において、若者に関する記載を設けています。
12		東委員	「コンパクトシティ」という言葉は、厚田・浜益などで農地を離れられない人にとって、中心部へ集約される印象を与えるため、意味を明確にすべき。	「コンパクトシティ」という単語を削除しました。
13		飯塚委員	子育て、多世代、高齢者の表現が中心で、20代や若者を対象とする記載が見えにくい。若者が関わることが見出しや文言で見えると自分ごと化しやすい。	戦略目標2－ねらい1において、 「若者が活躍し、多世代が集う活気あふれるまち」というねらいを追加し、若者の地域活動への参画を戦略目標に位置付けました。 その他、基本施策においても、 ・(3)協働・共創・共同の②地域コミュニティ ・(10)歴史・文化・生涯学習の②生涯学習 において、若者に関する記載を設けています。
14		佐藤委員	石狩湾新港地域は大企業や多様な働く場があるにもかかわらず、市民の認知度が低い。定住や就職の観点からも、市民に伝える工夫が必要。	第2章の地域特性の中で、新港地域の優位性を伝える記載を設けます。

No.	対象	発言者	意見・指摘の要旨	対応方針
15	第3章	星野委員	未就学児支援だけでなく、入学後の親や日常を支える支援も必要。土日祝日や夕方に家族で行ける場所、無料で過ごせる場所などの充実が望まれる。	基本施策の(1)こども・子育てにおいて、 「こどもの健やかな成長や子育て世帯の日常を支えるため、関係機関と連携し、多様な居場所づくりや支援の充実に努めます。」 という文章を追加しました。
16		森会長	こども施策は支える側の視点だけでなく、こども自身が楽しく生き、生活の質を高める視点が重要。また、こどもや若者の心の不調が深刻化しており、こどもが心身ともに健やかな環境にいられるまちになっているかという視点は、こどもに関連する施策とも関係する。	戦略目標1のねらい1において、こどもの活躍する機会の創出について記載を設けています。 また、基本施策(1)こども・子育ての①こどもの権利で、 「こどもの権利が守られ、こどもが一人の主体として社会参加し活躍できる環境を整えます。」 という記載を設け、こども自身が活躍するという視点を設けました。
17		森会長	高齢者についても、支援される側としてだけでなく、本人の楽しさや生活の質を高める視点が必要。	戦略目標のねらい2-2において、 「高齢者がこれまでの人生で培った豊かな経験や知識を発揮できる仕組みや、生きがいを持続けることができる環境を整えます。」 という記載を設け、高齢者自身が活躍するという視点を設けました。